

令和3年度

第15回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和3年11月11日(木)
開会10時5分 閉会11時9分

場 所 教育委員室

令和3年度
第15回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 教職員の懲戒処分について

(2) 報 告

① さくらの杜高等支援学校に係る開校準備の状況について

② 全国高等学校ロボット競技大会の結果について

③ 科学の甲子園大分県大会の結果について

④ 令和4年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について

⑤ 県教育委員会における障がい者雇用について

(3) 協 議

① 令和4年度大分県立学校実習助手採用選考試験について

(3) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	岡 本 天津男
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	高 鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
事務局	教育次長	渡 辺 登
	教育次長	久保田 圭 二
	教育次長	米 持 武 彦
	参事監兼特別支援教育課長	友 成 洋
	教育改革・企画課長	重 親 龍 志
	教育人事課長	大 和 孝 司
	高校教育課長	三 浦 一 雄
	教育改革・企画課 主幹 (総括)	門 野 秀 一
教育改革・企画課 主査	末 松 敬 雅	

2 傍聴人

3 名

開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、議題ごとに、関係課長のみ入室しますので、よろしくをお願いします。

(岡本教育長)

それでは、ただ今から、令和3年度第15回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、岩武委員にお願いします。

会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は11時10分を予定していますので、よろしくをお願いします。

(岡本教育長)

始めに、会議は原則として公開することとなっていますが、第1号議案及び協議①については、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(岡本教育長)

第1号議案及び協議①については、非公開といたします。

(岡本教育長)

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

議 事

【報 告】

① さくらの杜高等支援学校に係る開校準備の状況について

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「さくらの杜高等支援学校に係る開校準備の状況について」特別支援教育課長から説明をしてください。

(友成参事監兼特別支援教育課長)

「さくらの杜高等支援学校」に係る開校準備の状況について、報告します。
資料をご覧ください。

「1 校名」については、令和3年第2回定例県議会において、「さくらの杜高等支援学校」に決定しました。

以下は、学校が決定する事項になります。

「2 校章」について、ご覧のデザインに決定しました。令和3年6月11日から8月16日までデザインを募集し、合計194点の応募がありました。この中から、大分県立鶴崎工業高等学校 産業デザイン科 1年、姫野 和華（ひめのわか）さんの作品を選定しました。制作者（姫野さん）の「作品に込めた思い」にありますように、「社会のつながりで人と人がつながっている」「社会に貢献するときに『育っていく』という思い」が、さくらの杜高等支援学校のコンセプトに合致したと考えています。

「3 制服」です。男女ともにブレザースタイルとしています。本日は、実際のものをご展示しておりますが、スクールカラーである緑色や、校名にもある桜色をポイントして取り入れ、愛着が湧き本校生徒としてプライドが持てるデザインとし、華美でなく品性の感じられる制服に仕上げました。また、「誰もが自由に選べる、多様性のあるもの」という点を考慮しております。

最後に、「4 校歌」です。作詞・作曲とも、県内在住の特別支援教育の経験がある方をお願いをしました。地域性を盛り込んだ詩や、生徒にわかりやすい詩、曲調となり、歌いやすい校歌作りを目指したものです。校歌は完成しており、現在、伴奏を録音する作業を行っているところです。

報告は、以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見なし)

② 全国高等学校ロボット競技大会の結果について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第2号「全国高等学校ロボット競技大会の結果について」高校教育課長から説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

令和3年10月30日に、第31回全国産業教育フェアが埼玉県で開催されました。この中で実施された「第29回全国高等学校ロボット競技大会埼玉大会」の結果を報告します。今大会は、新型コロナウイルス感染症対策で、リモートでの開催となりました。

大分県からは、県予選(5校11チーム)を勝ち抜いた、鶴崎工業高校の「姫九六位41(ひめくろくいフォーティワン)」が県代表として出場しました。

全国大会は、各県の予選を勝ち抜いた35チームがエントリーし、一次審査では、ロボットの完成度確認用動画、レポート、プレゼンテーション動画が審査され、14チームが通過しました。その後の二次審査で3チームに絞り込まれ、大会当日の最終審査では、その3チームがオンライン上でプレゼンテーションを行い、審査員10名(大学関係者・企業関係者等)が、プレゼンテーション及び一次審査結果を総合的に評価して、最優秀賞1チームを決定しました。その結果、鶴崎工業高校の「姫九六位41」が見事に全国制覇を成し遂げました。これは、大分県初の快挙となります。

それでは、ここで鶴崎工業高校「姫九六位41」のプレゼンテーション動画をご覧ください。

<プレゼンテーション動画上映(5分間)>

生徒たちは、このロボット競技大会を通して、図面や回路図などを読み解く「読解力」、日頃の授業で身に付けた「知識や技術・技能を活用する力」、課題解決に必要な「発想力」など、将来、ものづくりを担う人材として必要な力を身に付けています。

初の全国制覇を成し遂げたところですが、2年生たちは、来年度の連覇に向けて意欲を燃やし、既に練習に取り組んでいると聞いています。また、他校にも大変良い刺激となりました。切磋琢磨して、大分県全体のレベルアップが図られるのではないかと思います。高校教育課としても、できる限りの支援をして、来年度につなげていきたいと思っています。

報告は、以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

ロボットの製作について、企業からのアドバイスはあったのでしょうか。

(三浦高校教育課長)

ロボット製作に関する技術については、学校の実習等で取り扱っています。教員の専門指導力が高く、生徒に技術指導しています。

(高橋委員)

「姫九六位41」というネーミングは、どのような由来がありますか。

(岡本教育長)

鶴崎工業高校の土地に、お姫様がいた昔話を由来にしているようで、鶴崎工業高校の場所を「姫九六位」と呼びます。そして、今回のロボットが41代目ということで、この名前を付けたとのこと。

(久保田教育次長)

「姫九六位」の言葉は、鶴崎工業高校の校歌の中にも出てきます。

(岩崎委員)

今年度は、リモート開催でオンライン審査とのことですが、来年度はどのような形式の開催となりますか。

(三浦高校教育課長)

全国産業教育フェアは、基本的には参集型で開催をしています。ただ、新型コロナウイルス感染症の対策で、昨年度の大分県大会から、オンラインを使ったハイブリッド開催となっています。今後、新型コロナウイルスの感染が収束していけば、参集型の大会に戻ると思います。通常であれば、同一会場で大会が開催されます。

(林委員)

今回の大会では、鶴崎工業高校が全国優勝しましたが、大分県全体のレベルについて、鶴崎工業高校だけが高いのか、あるいは、県全体のレベルが高いのか、どちらでしょうか。

(小林課長補佐(総括)〔高校教育課〕)

大分県全体のレベルが高いです。鶴崎工業高校だけを見ても、県予選に3台出場しています。仮に、その3台が全国大会に出場しても上位に入るレベルであると考えています。また、鶴崎工業高校以外の高校の教員の技術レベルも非常に高く、鶴崎工業高校が頭一つ抜けてはいますが、他の高校もそれに追随している状況です。

(林委員)

大分県内の工業高校の電気科の教員のレベルが高いということですか。

(三浦高校教育課長)

そうです。教員が切磋琢磨し、技術を磨いています。

(林委員)

全国大会での優勝は、とてもよい経験になったと思いますが、これまで出場してきた、高い技術力を持つ生徒やその先輩方の就職、進学については、どのような状況ですか。技術力をさらに高めるために、進学を考えていたりしますか。

(三浦高校教育課長)

大会に出場した生徒については、就職と進学のどちらもいます。それぞれの希望する進路に進み、頑張っています。

(林委員)

これだけの技術があれば、県内の企業に入ってほしいですね。

(鈴木委員)

私も大分工業高等専門学校先生、生徒とロボットの開発に携わっていますが、技術的に遜色ない素晴らしいレベルであると思います。プログラミングなども同じように取り組んでいます。大分工業高等専門学校や工業高校が連携することで、大分県内で、より高度なものに取り組めると思います。

11月6日に開催された大分県産業教育フェアにおいて、鶴崎工業高校のロボットを見たところ、コンパクトで軽量に製作されている点からも性能の高さを感じました。また、産業教育フェアでの鶴崎工業高校の取組も素晴らしかったです。

製作したロボットや今回の取組を、是非、中学生に紹介する機会を設けてほしいと思いますが、今回のロボット競技全国大会の鶴崎工業高校の動画などは、閲覧することはできますか。

(三浦高校教育課長)

全国産業教育フェアの大会ホームページで鶴崎工業高校の動画が閲覧できます。また、10月24日にOPAM（大分県立美術館）で開催された「発明工夫展」の会場で、鶴崎工業高校生徒が製作したロボットをデモンストレーションで紹介したところでした。今後も、このような機会を設定し、中学生に紹介していきます。

(鈴木委員)

県内の中学生を対象に紹介してください。興味を持つと思います。

(高橋委員)

今回の生徒のプレゼンテーションは、レベルが高いと感じます。11月1日に開催された「おおいた教育の日」推進大会での、国東高校双国校生徒のプレゼンテーションも素晴らしいものでした。プレゼンテーション能力は、企業で必要とされる力です。今回のプレゼンテーションについては、どのくらいの時間をかけて準備をしたのですか。

(小林課長補佐(総括)〔高校教育課〕)

今回のプレゼンテーションについては、資料の作成と発表の準備に費やした期間は、約一週間です。

(高橋委員)

今回のプレゼンテーションでは、発表する生徒が複数名いましたが、生徒はそれぞれの得意分野を発表したのですか。

(小林課長補佐(総括)〔高校教育課〕)

得意分野を発表したわけではありません。生徒はどの分野についても説明できます。全ての生徒がロボット製作の全工程を理解しています。

(高橋委員)

3Dプリンタを使いこなし、様々なものを製作できる生徒の力量とプレゼンテーション能力は、非常に高く驚きました。

(岩武委員)

鶴崎工業高校は、以前より、ものづくりに力を入れてきており、今回の活躍は、とても素晴らしいです。生徒のプレゼンテーション能力も高く感心しています。

これまでのプレゼンテーションは、原稿を読むといったイメージが強かったですが、生徒が自分たちで取り組んでいる内容だからこそ、自分たちの中で力が根付き、説得力のあるものになったと思います。とても感動しました。是非、次に続く指導者を育ててほしいと思います。そして、また新しい伝統を作ってほしいです。

③ 科学の甲子園大分県大会の結果について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第3号「科学の甲子園大分県大会の結果について」高校教育課長か

ら説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

「科学の甲子園大分県大会の結果について」報告します。

資料をご覧ください。

今年度で第11回目となる本大会は、科学好きの裾野の拡大とトップの伸長や将来の有為な科学系人材の育成を目的に、11月3日に、県教育センターで実施しました。

内容としましては、全国大会の競技種目に合わせて、県大会でも筆記競技、実験競技を2種類行いました。

筆記競技については、物理、化学、生物、地学、数学、情報から30点ずつ出題される問題を、1チーム生徒6人で協働して解きました。

実験競技Ⅰは、例年、科目が異なりますが、今年は生物でした。生体からサンプルを正確に取り出す技術を競うもので、3人で協働して課題を解決します。

実験競技Ⅱは、ものづくりに関する総合競技であり、3名で協働して課題を解決します。これは、1ヶ月前に、各チームにテーマを公開しており、準備をして臨む競技です。今年の問題は、「たおれやすい箱・たおれにくい箱」という、物理に関する出題でした。プラスチックの箱の中に細工をし、斜面に対して、倒れやすい箱と倒れにくい箱を作成するというものでした。

また、全競技が終了したあとに、講演会が行われました。講演会では、日田市の企業である、株式会社モリショウの代表取締役社長の森山さんが、大分県における脱炭素の取組と今後の展望について、映像を交えて話をしてくれました。特に、大分県内の取組が全国的に評価され、SDGsにつながる取組になっていることについて、生徒は興味深く聞いていました。

次に、出場チーム数と参加者数ですが、コロナ禍のため、各校2チーム以内という制限をかけましたが、参加校は、昨年度より3校増え、18校、28チーム、206名の参加と、資料に記載の学校から、今年も多く生徒が参加しました。今年、由布高校や竹田高校から初参加があるなど、地域の学校の健闘も目立ちました。

次に、結果をご覧ください。合計360点満点で競われたこの大会の最優秀賞は、大分上野丘高等学校のAチームであり、獲得点数は221点でした。大分上野丘高校は、昨年度から2連覇となっています。

最優秀賞の大分上野丘高校Aチームは、3月18日から茨城県つくば市で開催される、全国大会に参加します。現在のところは、全国大会は実施予定ですが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催状況の変更もありえると、大会本部から連絡を受けています。

以上で報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(林委員)

実験競技Ⅰの「生体から正確に試料を採取する」というのは、どのようなことをしたのですか。

(三浦高校教育課長)

ユスリカの幼虫から唾腺という器官を取り出して、観察する実験です。DNAやRNA、染色体を扱うような実験となっています。

④ 令和4年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第4号「令和4年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について」高校教育課長から説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

「令和4年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について」報告します。

資料1ページをご覧ください。

「1 目的」につきましては、将来大型船舶の幹部乗組員としての資質を養成するとともに、3級海技士以上の国家試験に必要な要件を付与することとしています。海洋科学高校は、国土交通省から海技士の養成施設として指定されており、3級海技士取得のために必要な乗船履歴の3年間で1年3ヶ月に短縮され、高校3年間で合わせて、5年間の在学中に、資格取得のための乗船履歴が担保されます。さらに筆記試験が免除され、専攻科卒業後は、口述試験に合格することで、3級海技士免状を取得することができます。海技士免状取得により、国内船の船長等の幹部職員として乗船することが可能となります。

「2 募集学科及び人数」は、海洋科の航海コースと機関コースで、合わせて10名以内としております。10名の根拠として、共同運航実習船「翔洋丸」において、大分県・香川県の生徒の乗船定員を50名としており、そのうち本科生徒を30名、専攻科生徒を両県合わせて20名以内と設定し、平成31年度入試より、専攻科の募集人員を各県10名以内と定めています。

「3 修業年限」は、2年です。

「4 応募資格」は、大分県立海洋科学高等学校海洋科の卒業生又は他の水産高等学校海洋漁業系、海洋工学系の卒業生若しくはこれと同等以上の学力があると認められる者で、資料に記載の(1)～(3)の各号に該当する者としています。

「5 出願期間」は、令和3年12月6日（月）～12月10日（金）としており、「6 出願手続」による手続きを必要としています。

次に、資料2ページをご覧ください。

「7 学力検査及び面接」について、検査場は海洋科学高校、検査日は令和4年1月12日（水）、検査内容は筆記試験と面接です。

「8 追検査」について、新型コロナウイルス感染症に係る追検査日については、1月26日（水）に設けています。

「9 合格者の発表」については、海洋科学高校にて、1月13日（木）午前9時を予定しています。追検査を実施した場合は、1月27日（木）午前9時を予定しています。

報告は、以上です。

（岡本教育長）

ご質問・ご意見はありませんか。

（岩武委員）

募集人員が10名以内ということですが、この枠で十分であるということでしょうか。

（三浦高校教育課長）

毎年、10名程度で収まっているという状況です。

（林委員）

世の中の要請というか、このような免許を持っている人たちが海運業界でごく必要とされているのではないかと思います。そのような要請はないでしょうか。

（三浦高校教育課長）

海運業界の状況等を勘案すると、定員をもっとたくさんということもあるかもしれませんが、実習船の定員があり、さらに、香川県との調整もありますので、本県と香川県とで、それぞれ10名ということで推移しています。

（久保田教育次長）

共同運航をしていますので、航海実習の時に乗り込む人員は限られています。単独であれば、振り分けながら、もう少し乗れるという感覚もありますが、香川県と合わせて20名の専攻科生という枠でしか、今のところは受け入れられておりません。

（林委員）

産業界からの要請はどうですか。

(久保田教育次長)

今のところ要請はありませんが、就職については、非常に引く手あまたの状況です。今後、産業界からの要請等もあるかもしれませんが、今のところは定員内で収まっており、本県から希望する生徒は、希望どおり合格しています。

(岡本教育長)

ただ今説明がありましたように、香川県と大分県で人数を調整しながらやっている状況です。香川県と大分県、それぞれ10名ずつにしている状況ですが、今後、どちらかの県で10名を超える応募があり、人数上限による不合格者を出すくらいであれば、もう片方の県が10名を満たしていなければ、そちらに誘導するということが、まず考えられると思います。

また、西日本で考えるのがいいのか、もう少し小さい範囲で考えるのがいいのかはありますが、このような専攻科がある学校同士で情報交換をして、生徒の確保をするということも、将来的には必要かと思えます。

(高橋委員)

専攻科を修了し、その後、水産大学校に進学する場合は、短大卒と見なしてよいのでしょうか。

(三浦高校教育課長)

専攻科を卒業すれば、3級海技士の資格が取れますので、水産大学校などに改めて行く必要はないと思います。

(高橋委員)

山口県下関市の水産大学校に進学した知人からの話で、一等航海士にならないと外国航路に出ることができないということでした。そういう資格を取るために、専攻科で勉強をしていて、もう一つ上を目指そうとなった時に、編入という形になるのか、それとも、試験を受けて大学に入学しなければならないのか、どちらでしょうか。

(吉高指導主事〔高校教育課〕)

私が把握している限り、おそらく、下関市の水産大学校などにおいても、海洋科学高校専攻科と同じように、3級海技士の資格を取ることを想定していると思いますので、それ以上の2級、1級については、独学で働きながら乗船履歴をつけていくという形になってくるのではないかと思います。

(高橋委員)

資格は、専攻科を修了すれば、大学か短大と同じ扱いになるということでしょうか。

(久保田教育次長)

基本的には、専攻科ですので短大と同等とみなされます。専攻科の卒業生については、ほぼ半数が3級を取得しており、その後、2級、1級を取得するためには、乗船経験などの条件がかなり厳しくなります。ある程度の時間数、実際に働いた経験がなければなりません。

(高橋委員)

わかりました。ありがとうございます。

(鈴木委員)

私は、土木建築部の公共事業の事業評価監視委員会の委員になっており、港湾事業を見る機会があります。他県の港湾課からの「大分県との新しいRORO船などの貨物船の路線運航を考えますか」というアンケートに回答したりもしています。

大分県においても、港湾整備には力を入れていて、新しい航路を広げたいという思いもあり、船に乗れる人をすごく求めています。船に乗れる人材を育成してほしいという声が、業界から多くあります。

また、これから、労働時間の関係で陸送が厳しくなるので、船の利用も必ず必要になると思います。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により、貨物船が1～2週間の期間、港で足止めされるような状況なので、大分県でもしっかり港湾を整備して、大きな貨物船が入れるように整備を進めています。そのような状況なので、資格を取得して希望すれば、就職は有利に働くとおもいます。

人材がほしいという声があるので、何かお困りがあれば港湾課に伝えてみるとよいのではないのでしょうか。すごく望んでいると思いますし、他部局の関係課とつながることが非常に大事だと思います。

私も港に実際に行き、大きな船が入ってくるために港を整備している様子を見ました。もし、興味があれば紹介することもできます。実際に見た方が将来の希望につながるのではないかと思います。大分県は、日本でも有数の港を保有しており、輸出量も多いので、そのような取組も考えていただけるとありがたいです。

(三浦高校教育課長)

ご意見ありがとうございます。海洋関係の仕事への就職とかが、こんなに求められているという状況も含めて、県内の中学生などにしっかりと広報をしながら努力をしたいと思っています。

(高橋委員)

専攻科では、英語をどれくらい教えているのでしょうか。タグボートで大型船を引っ張るときに、ある程度の英会話ができなければいけないことを聞いたことがあります。海外の船を引っ張るときに、船のデッキ同士で話す言葉が英語との

ことです。どれくらいの科目で英語を教えているのでしょうか。

(吉高指導主事〔高校教育課〕)

専攻科の2年生の時に海事英語ということで、いわゆる、海洋系の専門の英語を3単位設置しています。この英語については、海技士の2級以上の資格を取る際に必要となってくる部分ですので、そういったところにも学校は力を入れています。

(高橋委員)

海技士の免許を持っていなくても、ある程度の免許を持ち、英語を話すことができるのであれば、是非、採用したいという企業などもたくさんあるので、そういったところにも力を入れてみたらよいと思います。

(岡本教育長)

他には、よろしいでしょうか。多くのご意見、ありがとうございました。

⑤ 県教育委員会における障がい者雇用について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第5号「県教育委員会における障がい者雇用について」教育人事課長から説明をしてください。

(大和教育人事課長)

「県教育委員会における障がい者雇用について」報告します。

障がい者雇用率の状況については、令和2年度は、法定雇用率2.4%に対して2.47%と、法定雇用率を達成することができました。

令和3年度の法定雇用率については、昨年度の2.4%から2.5%に上がりましたが、表にあるように、新たに正規職員5名(内訳は教員1名、教育事務4名)を採用しました。また、非常勤職員5名を県立学校と教育機関で増員しました。その結果、2.61%となり、法定雇用率を達成することができました。引き続き、正規職員等を採用するなど障がい者雇用の推進に向けて取り組んでいきます。

説明は、以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(林委員)

教員を昨年度と今年度、採用しています。既に、生徒に教えていると思います
が、何か困ったことや施設面の整備の状況はどうなっていますか。

(二村課長補佐(総括)〔教育人事課〕)

身体障がいがある方になりますが、特段、不都合等は聞いていません。

(林委員)

障がいのある教員の方が授業をすることは、子どもたちにとって、すごく良い
ことだと思います。授業にあたり、授業の様子や子どもたちの反応はどうですか。

(渡辺教育次長)

過去にも、車椅子を必要とする方を採用しましたが、子どもたちが社会に様々
な方がいることを知ることができて良かったと聞いています。

(岩崎委員)

教員や教育事務については、身体障がい者が中心だと思いますが、非常勤職員
も含めて、精神障がい者や知的障がい者の割合はどうなっていますか。

(大和教育人事課長)

現在、正規・非正規を含めて、169名の方を採用しています。その内、身体
障がい者が116名、知的障がい者が18名、精神障がい者が35名となってい
ます。

(岩崎委員)

教員や教育事務として採用された方は、基本的に、身体障がい者と考えてよい
ですか。

(大和教育人事課長)

教育事務については、近年、精神障がい者の採用もあります。しかし、今年度
採用者4名の内、1名の方が職場に適応できず、9月末で退職するといった事例
もあります。

(岡本教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行いますが、その前に、公開でそ
の他、何かありますか。

(岡本教育長)

では、非公開の議事を行いますので、傍聴人は退出をしてください。

【議 案】

第 1 号議案 教職員の懲戒処分について

(3 課〔教育改革・企画課、教育人事課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第 1 号議案「教職員の懲戒処分について」提案しますので、教育人事課長から説明をしてください。

(説 明)

(岡本教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。
ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

それでは、第 1 号議案の承認についてお諮りします。承認される委員は、挙手をお願いします。

(採 決)

(岡本教育長)

第 1 号議案については、提案のとおり承認します。

【協 議】

① 令和 4 年度大分県立学校実習助手採用選考試験について

(2 課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(岡本教育長)

次に、協議第 1 号「令和 4 年度大分県立学校実習助手採用選考試験について」教育人事課長から説明をしてください。

(説 明)

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

それでは、今回の説明のとおり、準備を進めていきます。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

(岡本教育長)

それでは、これで令和3年度第15回教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。